

令和 3 年 5 月 31 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01702

研究課題名（和文）社会的スキルを獲得させる体育授業カリキュラムの開発及びその効果に関する研究

研究課題名（英文）Study on development of the physical education class curriculum letting you get a social skill and effect

研究代表者

友草 司（Tomokusa, Tsukasa）

立命館大学・教育研究・研修センター・教諭

研究者番号：10779036

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：中学校体育授業実践において生徒の社会的スキルが身に付くかをTPSRモデルとASKSモデルに基づき作成された体育授業プログラムを作成して確認した。TPSRモデルに関する実践では、社会的スキルに関する調査において、単元前後で男女とも有意に向上がみられた。また、ASKSモデルに関する実践では、単元前後で男女とも有意に向上がみられた。

小学校1年生から6年生の児童を対象とした「学び・人間性」を児童に身に付けさせることを目的とした実践では、「学び・人間性」に関する質問紙の合計点の平均値の差について、いずれの学年においても有意差は見られなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2017年、2018年改訂の学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が3つに整理された。なかでも、体育科においては「学びに向かう力・人間性等」を児童生徒に身に付けさせる効果的な授業の創出が求められている。しかしながら、これらの力を獲得させる体育授業プログラムの検証が広く確認されておらず、対象を拡大しての結果検証が求められる。

実践を通じて、体育授業プログラムの中に意図的な指導内容を付加する事により児童生徒に「学びに向かう力・人間性等」を身に付けさせる事が出来るモデルがある事が確認された。

研究成果の概要（英文）：I made a physical education class program made whether you acquired the social skill of the student in the junior high school physical education class practice based on TPSR model and ASKS model and confirmed it. By the practice about the TPSR model, improvement was significantly seen with the man and woman in approximately a unit in the investigation about the social skill. In addition, by the practice about the ASKS model, improvement was significantly seen with the man and woman in approximately a unit.

By the practice for the purpose of letting a child acquire "learning, the human nature" for the children of the sixth grader from a first grader, the significant difference was not seen about the difference of the mean of the total point of the question paper about "learning, human nature" in which school year either.

研究分野：体育科教育学

キーワード：社会的スキル 学びに向かう力・人間性等

1. 研究開始当初の背景

今日、児童生徒のいじめは大きな社会問題となっている。特に、中学校段階は極めて深刻な状況にある(文部科学省, 2015)。この問題に対して、中学校では、生徒指導力のある教師が対応し、当該生徒及び家庭と対応しつつ解決を図ってきた。しかし、生徒指導力のある教師が異動をすると、再びいじめが頻発し、生徒指導上の課題を抱えた学校となっていく。このような教師個人の指導力に頼った防止策は、指導のプログラム化が難しく、いじめの抜本的な解決にはなりにくい。いじめの抜本的な解決には、誰もが活用できる指導プログラムを開発し、誰もがそれを活用できるようにすることが必要である。一方、いじめの防止には、児童生徒に社会的スキルを獲得させることが有効であると指摘されている(土屋、2005; 滝、2001、2007)。児童生徒に社会的スキルを獲得させることは、指導のプログラム化が可能である。いじめの防止に有効であるならば、いじめ問題の抜本的な解決のために、社会的スキルを獲得させる指導プログラムを開発することが極めて重要な課題であると考えられる。体育では、社会的スキルを獲得させる指導モデルが開発され、その効果を検証してきた。例えば、梅垣(2016a)は、米国で開発された Teaching Personal and Social Responsibility(以下「TPSR モデル」)を、我が国の中学生の体育授業に適用し、その効果を検証した。TPSR モデルは、児童生徒に行動目標を示し、それらの実行を通して社会的スキルを獲得させるというように、直接的に行動の獲得をめざす指導モデルであった。これに対し、梅垣(2016b)は、社会的スキルに関する知識の理解を通して、社会的スキルを獲得させる新たな指導モデルである Acquisition of Social Knowledge in Sport Model(以下「ASKS モデル」)を開発し中学生の体育授業に適用し、その効果を検証した。

2017年、2018年改訂の学習指導要領(以下、17.18要領と示す)では、育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、及び「学びに向かう力・人間性等」の3つに整理された。高橋(1997)は、体育科の目標論において、戦後から「態度」は一貫して位置付けられてきたと述べている。さらに、岡出(2017)、及び藤井・大友(2020)の報告によると、17.18要領における「学びに向かう力・人間性等」の記載について、教科の目標、及び学年の目標には「学びに向かう力・人間性等」の記載が見られた。しかし、内容の記載に関しては、小学校における生活科、並びに小学校、中学校、及び高等学校における体育科以外の教科では見られないことが報告されている。以上のように、歴史変遷からも、体育科においては、「態度」(17,18要領における「学びに向かう力・人間性等」)が、他教科と比較した場合においても重要視されている。しかし、現在、「学びに向かう力・人間性等」を児童に身に付けさせる効果的な指導方法は見られない。

以上のことから、体育科において「学びに向かう力・人間性等」を児童に身に付けさせる効果的な授業の創出が求められている。

【引用文献】

- 梅垣明美・大友智・南島永衣子・上田憲嗣・深田直宏・吉井健人・宮尾夏姫(2016a) 中学校の体育授業におけるTPSRモデルの効果の転移及び保持に関する検討. 体育学研究, 61(2):503-516.
- 梅垣明美・大友智・南島永衣子・上田憲嗣・深田直宏・吉井健人・宮尾夏姫(2016b) 中学生の体育授業を対象としたチームビルディング学習の開発とその有効性の検討. 体育科教育学研究, 32(2):1-18.
- 藤井一貴・大友智(2020)学習指導要領における目標及び内容に関する「学びに向かう力・人間性等」の記載の分析-特に、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、及び高等学校

学習指導要領を対象として-. 日本体育科教育学会第 25 回学会大会, 13.

岡出美則(2017)なぜ、「学びに向かう力・人間性等」の指導内容は体育のみに示されたのか. 体育科教育, 65(13):pp.39-41.

高橋健夫(1997)体育科の目的・目標論. 竹田清彦ほか編, 体育科教育学の探求-体育授業づくりの基礎理論-. 大修館書店:東京, pp.18-40.

2. 研究の目的

本研究の目的は、1)中学校体育授業プログラムに TPSR モデルを組み込んだ体育授業プログラム[TPSR モデル編]、及び、中学校体育授業プログラムに ASKS モデルを組み込んだ体育授業プログラム[ASKS モデル編]を開発してその効果を検証する、2)小学校 1 年生から 6 年生の児童を対象とし、「学び・人間性」を児童に身に付けさせることを目的とした「ゲーム(ネット型ゲーム)」単元、及び「体づくり運動」単元を開発してその効果を検証する。

3. 研究の方法

中学校体育授業プログラム開発

高知県高吾地区中学校体育連盟(以下、「高吾地区中体連」と称する)と協働して、管内中学校体育授業において、開発された体育授業プログラムを実践し、実践前後で生徒の変容を比較して指導モデルの適用可能性の調査研究を行うこととした。

(1)対象

社会的スキルを獲得させる体育授業プログラムを適用する対象授業は、以下の通りである。

対象校	対象学年	体育授業プログラム	単元実施時期
高知県 IM 中学校	第 1 学年 男子	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ゴール型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2017 年 12 月
高知県 IM 中学校	第 1 学年 女子	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ゴール型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2017 年 12 月
高知県 KT 中学校	第 1.2.3 学 年男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ネット型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2018 年 1 月
高知県 GH 中学校	第 1 学年 男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ゴール型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2018 年 1 月
高知県 HN 中学校	第 1.2.3 学 年男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ネット型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2018 年 1 月
高知県 TK 中学校	第 1 学年 女子	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ゴール型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2018 年 1 月
高知県 HD 中学校	第 1 学年 男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ゴール型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2018 年 1 月
高知県 HD 中学校	第 2 学年 男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ネット型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2017 年 11 月
高知県 KM 中学校	第 1 学年 男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ネット型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2017 年 11 月
高知県 US 中学校	第 1 学年 男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ネット型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2018 年 1 月
高知県 TO 中学校	第 2 学年 男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ネット型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 10 月 2017 年 11 月
高知県 SK 中学校	第 1 学年 男女	体づくり運動・TPSR モデル編・第 1.2 学年用 ネット型・ASKS モデル編・第 1.2 学年用	2017 年 11 月 2018 年 1 月

(2)データ項目、及び、調査時期

体育授業プログラムの効果を検証するため、「対象授業1」の中学校生徒を対象に以下の調査を行う。具体的には、社会的スキルに関する調査、体育授業に関する診断的・総括的授業評価、運動有能感調査である。

小学校体育授業プログラム開発

高知県 TS 小学校の協力を得て、開発した体育授業プログラムを実践し、実践前後で生徒の変容を比較し、その効果を検証した。

(1)対象

開発した体育授業プログラムを適用する対象授業は以下の通りである。

対象校	対象学年	体育授業プログラム	単元実施時期
高知県 TS小学校	第1,2学年	体づくり運動・「学びに向かう力・人間性等」・低学年用 ボール運動領域ネット型・「学びに向かう力・人間性等」・1年生用,2年生用	2020年 5月 2020年 10月
	第3,4学年	体づくり運動・「学びに向かう力・人間性等」・中学年用 ボール運動領域ネット型・「学びに向かう力・人間性等」・3年生用,4年生用	2020年 5月 2020年 10月
	第5,6学年	体づくり運動・「学びに向かう力・人間性等」・高学年用 ボール運動領域ネット型・「学びに向かう力・人間性等」・5年生用,6年生用	2020年 5月 2020年 10月

(2)データ項目、及び、調査時期

体育授業プログラムの効果を検証するために、「学びに向かう力・人間性等」尺度を単元の前後に実施した。

4. 研究成果

中学校体育授業プログラム開発

(1)TPSR モデルにおける検証結果

1)社会的スキルに関する調査

社会的スキルに関する調査において、単元前後で男女とも有意に向上がみられ、特に「向社会的スキル」、「攻撃行動の減少」に向上が確認された。

2)体育授業に関する診断的・総括的評価に関する調査

体育授業に関する診断的・総括的評価に関する調査において、男女とも全体的に有意に向上がみられ、特に「楽しむ」、「できる」、「学ぶ」は向上が確認された。

3)運動有能感調査

運動有能感調査において、単元前後で男女とも有意に向上が見られた。特に「受容」に向上が確認された。

(2)ASKS モデルにおける検証結果

1)社会的スキルに関する調査

社会的スキルに関する調査において、単元前後で男女とも有意に向上がみられ、特に「向社会的スキル」、「攻撃行動の減少」に向上が確認された。

2)体育授業に関する診断的・総括的評価に関する調査

体育授業に関する診断的・総括的評価に関する調査において、単元前後で男女とも有意な得点の向上はみられなかった。

3)運動有能感調査

運動有能感調査において単元前後で男女とも有意な得点の向上はみられなかった。

小学校体育授業プログラム開発

学びに向かう力の育成及び人間性等の涵養を目的とした効果的な体育授業プログラムの

効果検証を行なった結果、小学校低学年、小学校中学年、及び小学校高学年の単元前後の変化について検証した結果、いずれの学年においても有意な得点の向上はみられなかった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 藤井一貴・大友智・友草司・深田直宏・吉井健人
2. 発表標題 体育における共生概念の検討-中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説保健体育編(平成 29 年 7 月)の分析を通して
3. 学会等名 日本スポーツ教育学会第39回学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUJII, Kazuki., OTOMO, Satoshi., TOMOKUSA, Tsukasa., FUKADA, Naohiro., YOSHII, Takehito., and NISHIDA, Junichi
2. 発表標題 Effects of a Physical Education Program Adapted to the New Course of Study: Analyzing on Physical Competence and "Kyousei".
3. 学会等名 Yokohama Sport Conference, (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大友 智 (otomo satoshi) (90243740)	立命館大学・スポーツ健康科学部・教授 (34315)	
研究分担者	梅垣 明美 (umegaki akemi) (00389660)	大阪体育大学・体育学部・教授 (34411)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------